

2026年5月20日

各位

会社名 株式会社エンビプロ・ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 佐野文勝
(コード番号：5698 東証スタンダード)
問合せ先 取締役 管理管掌 竹川直希
(TEL. 0544-21-3160)

連結子会社におけるAI技術を活用した「自動投入制御システム」の本格導入に関するお知らせ ～ アーステクニカと共創、現場の負担軽減と安定生産により人手不足解消へ貢献 ～

当社連結子会社である株式会社エコネコル（以下「エコネコル」）は、株式会社アーステクニカ（以下「アーステクニカ」）が開発したシュレッダー設備の「自動投入制御システム」の開発・実証に協力し、エコネコル本社工場において、自動車由来のスクラップを対象とした本格運用を開始いたしました。

1. 背景と目的

リサイクル工場のシュレッダー投入工程は、不均一な廃棄物に合わせて瞬時に判断を下す熟練オペレーターの「眼と感覚」に依存しており、高い集中力と心身への負担が課題でした。また、習熟度による処理量のばらつきや、業界全体の人手不足への対応として、業務の標準化と労働環境の整備が急務となっていました。

2. 「自動投入制御システム」の概要と導入成果

本システムは、エコネコルで10年以上活躍する熟練オペレーターの判断基準をAIに学習させたものです。実証段階での画像学習等の試行錯誤を経て、以下の成果を実現しました。

- **安定生産の実現**：オペレーターの習熟度に依存せず、熟練者の手動運転と同等以上の高い生産量を安定的に維持することが可能となりました。
- **業務の標準化と労働環境の改善**：絶え間ない監視と複雑な判断業務をAIが担うことで、オペレーターの心身の負担を大きく軽減しました。
- **人的資本の高付加価値化**：システム導入により、従業員は全体の監視や安全管理など、より付加価値の高い業務へ注力できる環境が整いました。

3. 現場の声（エコネコル 担当オペレーター）

「10年以上手動運転に携わってきましたが、AI導入で精神的・肉体的な負担が大きく軽減されました。『人への優しさ』を備えたシステムだと感じています。機械に任せられる部分が増えた分、より安全で付加価値の高い業務で貢献していきたいです」

4. 今後の展望

今後は、本システムを他種別の原料へ展開するとともに、クレーン操作の自動化や夜間の無人稼働、遠隔操作の実現も視野に入れ、アーステクニカとともに次世代型のスマートリサイクル工場の構築を推進してまいります。

なお、本件は、本日より東京ビッグサイトで開催される「2026NEW 環境展」のアーステクニカブースにて公開されています。

5. 今後の見通し

本件が当期の連結業績に与える影響は軽微ですが、中長期的な企業価値向上に資するものと考えております。

以上